

2011 SUPER GT Rd,2

吉田広樹
〈岡山国際サーキット〉

開幕の富士から3週間のインターバルを挟み迎えたRd,2岡山。4月に開幕戦として行われる予定でしたが、季節をずらして行われることになりました。

5月20・21日 フリー走行

この日は真夏日のような気温の中、フリー走行が開始されました。セッション開始と共にコースイン、持ち込みセットの確認をします。今回の岡山は前回の富士とはまったく真逆のキャラクターを持つサーキットなのでセッティングもコーナリング重視のセッティングへと変更して走りこみました。午前の走行ではセッティングを積極的に変更しながらアタックを行い1'35,140のタイムを記録し、9番手で終わりました。その後はチームメイトとセッティングを確認しながら周回を重ねます。翌日にはタイヤのコンパウンドの違いを把握するため、各タイヤでアタックを行わせて頂きました。各タイヤごとにキャラクターも違い、それぞれの特徴が把握できる貴重な経験をさせて頂きました。今後予選に適したタイヤや決勝用、または季節に合わせてどのコンパウンドが相応しいのか、セッティングを行っていくうえでも参考にしていきたいと思えます。

5月21日 公式予選 DRY 18番手/22台中

今回の予選は前回の富士とは違い、ノックダウン方式の予選となります。1回目の予選で16位以内にはいることで次のセッションに進めるため、そこまで考えてタイヤの選択やドライバーの選択を行わなければなりません。フリー走行から予選、決勝スタートまでで利用できるタイヤセット数が5セットと決まっていたのですが、レギュレーションをしっかりと把握出来ていなかったことから、予選で利用できるNEWタイヤが1セットしか残さず悪い状況となってしまいました。チームとミーティングを行い、チームメイトにNEWタイヤでアタックを行ってもらい、私はユーズドタイヤで16位以上のタイムを目指すこととなりました。残された予選時間やQ2に進出できた場合のことも考慮し、相応しいと思われるコンパウンドのユーズドタイヤでアタックを行ったのですが、0,3秒足りず18位で公式予選を終えることとなりました。しかし今回は前回合わせきれなかった内圧なども細かく管理することで合わせることができ、よりタイヤの性能を発揮できるようになったことは大きな収穫だったと思います。



<NO.1>

2011 SUPER GT Rd,2

吉田広樹
〈岡山国際サーキット〉



5月22日 決勝レース DRY 16位/22台中

前日の予選の計測5周目に足回りに発生したトラブルから、エンジンも降ろさなければならぬ状況となってしまいましたが、メカニックさんたちが徹夜で作業してくれたおかげでフリー走行には間に合うことができました。しかし決勝日は朝から雨が降り始め、フリー走行の時間には雨量が多すぎることから危険と判断され中止となってしまいました。

しかし徐々に天候も回復し、レーススタート前にはDRYコンディションとなりました。ウォームアップランで少しセッティン

グを変更し、内圧の上がり方などを確認しながら決勝に備えます。

雨上がりがなから陽射しが照りつけ、蒸し暑い中レースがスタートしました。序盤は前方の集団についていきながらオーバーテイクのチャンスを探ります。この岡山はコース幅も狭いため500クラスの譲り方が大きなポイントとなります。そんな中、1台をパスし、さらにトラブルやコースアウトする車両がいたこともあり少しずつポジションを上げることが出来ました。レース前にチームとミーティングを行いレース距離の2/3を私がドライブする作戦だったので、固めのコンパウンドのタイヤでひたすら周回を重ねます。42周走行したうちの15周目くらいまではグリップを感じながら走行を重ねていたのですが、そこから先は前後のタイヤともグリップが落ち始め、走行ラインやブレーキングポイントを調整しながら周回を重ねました。レースも中盤を過ぎたところで同じような作戦を採用しているマシンの背後につけることができ、5番手争いを行いながらオーバーテイクの隙を探ります。しかしそんな中、私がミスをしてしまい8番手までポジションをさげしてしまうこととなりました。その後はタイヤの状況を確認しながらチームと連絡をとり、タイヤ無交換で行くことが決定。予定周回数を走りきり、チームメイトのメルビンさんにドライバーチェンジ。その後はタイヤを交換しなかったにも関わらずメルビンさんが安定し



THUNDER
RACING ASIA

<NO.2>

2011 SUPER GT Rd,2

吉田広樹
〈岡山国際サーキット〉

た走りでも周回を重ね16位でチェッカーを受けることが出来ました。

今回のレースを振り返るとマシンはもっと上位でチェッカーを受けるポテンシャルがあったと思います。しかし私のミスで台無しにしてしまったことやドライバーチェンジに時間をかけ過ぎてしまったりとこれからの課題がバツキリしました。また1番の課題は500クラスとの混走の部分だと思っています。自分が後ろを見る余裕がないことから危ない場面もあったり、譲り方が上手くなくタイヤカスを拾ってしまったりと今後修正していかなければいけない部分だと思うので、しっかりと考えて次戦のマレーシアに繋げたいと思います。マレーシアはチームのホームレースでもあるので、ベストなリザルトを残せるようチーム一丸となって頑張りたいと思います。それでは引き続きご指導、ご支援宜しくお願い致します。

Thunder Asia Racing
吉田 広樹



<NO.3>